ヒトデナシ

蒼樹 空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ヒトデナシ

【Ｎコード】
Ｎ５１１７ＢＡ

【作者名】
蒼樹　空

【あらすじ】
真昼でも暗い森。
人は目覚める生の朝と眠る死の夜を必ず人生の端に持っている。
暗い森で、本当の夜を迎えられたのだろうか
それとも……

（愛と死とヒトデナシの物語）

遡逅　1（前書き）

亀更新ですが、お付き合いください。

流血表現、残酷な表現ありますがある意味のハッピーエンドを目指します。

また、「ヒトデナシ」は私が書こうとするシリーズの一つですので後に出てきた登場人物が中心の別の話ではタグが変わりますので注意。つまり、「ヒトデナシ」では〇〇だと思っていた人が……ということです。

遡逆　1

帰ろうか、帰ろうよ。紛い物でも構わないか　ら、帰ろうよ。

――――本当の夜が来た。　いつかは誰にも訪れるという、生き物の最後の　夜だった。

暗い森の中で雨に打たれる。空はきっとどんよ　りとした重く厚い雲で覆われているはずだろ　う。ここからでは見えない。ただ木々の葉を　縫って雨が森の地面に降り注ぐ。　そんな森の中で俺はいつかの夜が今であること　を知った。　地面に座り込んだ俺の視線の先には俺。腕は何　処に行ってしまったのだろうか、よりによって　利き腕がなくなってしまっていた。不便そうだ　ね、と他人事のように思う。だって、今の俺に　はそっちの手はしっかりと付いている。　俺であって俺でないのが地面に転がって、俺で　会って俺でないのが見ている。　左の眼球が瞑れて、溶けて白い眼球だった液体　が涙のように目の横を伝う。どろどろとした涙　は雨に流されることもない。窪んだ眼窩には光　が入らない。寧ろ、光を飲みこんでいるような　穴は円としては歪んでいて、俺を嘲笑っている　ようだった。

俺は死んでしまった。

馴れた森の中で死んでしまっている。　所謂死んだ時のショックだったのか、どのよう　に死んだのか思い出せない。　静寂の森で、穏やかに自分の死について考えて　いる。だって、俺の脳裏には白い靄がかかり、　何も心を荒ぶらせない。転がっている俺の右頭が潰れて柔らかい肉が出ているせいだろうか。　そう、思うと笑えた。

全く、碌な死に方じゃない。でも、これが昔考　えたいつかの姿だった。一緒に森に来た仲間は　俺を回収してくれるだろうか、それとも他人と　同じようにここで朽ちるに任せてしまうのか。　残った、でも、酷く濁っている右目が青いこと　を見て思い出す。この目の色が好きだと言って　くれた女を思い出した。

「空を見ているみたい」

そう、寝台の上で俺を見上げて熱の籠った目を　していた。きっと、あの時の汗のように体を濡　らすこの雨は優しいのだろう。全てを許してく　れるのだろう。　エリー。死んだ瞬間に君のことを想っていたかわからないけど、今は君ことを想っている。　ねえ、この醜くなった俺の体を持って帰ってき　て欲しい？この体を見て、君は泣かない？　こんなことを悩むんだったら、いっそこのいつかは彼女が俺が死んだことを知って泣かない日であって欲しかった。

帰りたい、帰りたい。

君の手を握っていた手はないけれど、反対の手　でいい？

一緒に街へ行って、荷物を持って反対の手で指　を絡めて歩くこと

なんて出来なくなってしまっ　たけど、帰っていい？

背中に手を回して貰っても爪跡をもう付ける皮　はないよ。でも、

より俺の内に爪跡残せるよ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5117ba/

ヒトデナシ

2012年1月14日02時49分発行